

今号のピックアップ

- 1ページ ・第29回大阪市立小中学校事務研究大会案内
- 2ページ ・会長コラム、第55回全国公立小中学校事務研究大会報告 等



第29回 大阪市立小中学校事務研究大会
～“KYOUDOU”次代につなぐバトン いま私たちにできること～

〔 日時:令和5年9月22日(金) 13:20～ 〕
〔 場所:大阪市教育センター 2階 講堂 〕

13:00	13:20	14:00	15:00	15:15	17:00
受付	開会行事	研究発表	休憩	記念講演	

<研究発表>

昨年度は「校内組織から考察する学校事務職員のあり方～個から集団への転換に向けて～」と題し、学校事務職員が「チームとしての学校」において総務・財務といった分野で、ミドルリーダーとしての役割を果たしながら学校経営へ参画することで、各学校の教育目標の達成や課題解決に向けて、主体的に校内組織へ参画していくことが必要だと考え、共同学校事務室における相互の兼務発令を活用して実現していく、といった新たな学校経営への参画のあり方について提案し、研究発表を行いました。



今年度は、「学校事務職員の専門性とその継承～財務運営から見る知識と経験の継承について～」と題し、すべての学校において学校事務職員が専門性を発揮し、適正に学校経営へ参画するために、「学校事務職員の専門性」とは何か、またそれをどのように次世代へと継承していくのかについて、研究部が取り組んだ実践を報告し、そこから見えてきた成果と今後の展望について発表します。

是非とも会員の皆様と、これからの大阪市の学校事務について考える時間を共有したいと切に願っています。皆様のご参加をお待ちしています。

<記念講演>

記念講演では、文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長（併）教育政策・評価研究部長（命）教育データサイエンスセンター副センター長 藤原 文雄 様を講師にお迎えし、「みんなで学び合う共同学校事務室～みんなの力で学校経営に参画しよう～」と題してご講演いただきます。他都市で取り組まれている業務改善実践例をご紹介いただき、共同学校事務室という組織のなかで業務実践を共有し、可視化する仕組づくりの大切さや、学校経営へ参画するための業務実践の重要性などについてお話しいただく予定です。

～会長コラム Vol.10 『二人三脚で』～

初秋涼夕とは程遠い暑い日が続いていますが、本校では子どもたちのプール水泳もそろそろ終わりを迎え、運動会に向けた練習が始まる季節となりました。



さて、運動会の種目のなかに『二人三脚』という競技があります。私の子どものごころとは違い、最近では児童用の種目に限らず、親子競技などで行われていることもあるようです。この二人三脚ですが、皆さんもご存じのとおり個人走とは違い、いくら足が速くてもパートナーと息が合わなければなかなか前に進むことができませんし、逆に足があまり速くなくてもパートナーと息が合えばどんどん前に進むことができるといった競技です。そのため、事前に二人で話しあうなかで、出す足の順番や歩幅、歩調といった共通のルールを決め、かけ声でお互いのタイミングを確認しあうといった、二人のチームワークが勝敗につながるという点が、非常に戦略的で奥深い競技だと私は思います。

そして、この二人三脚という言葉はビジネス用語としても使用されており、競技内容と同じく『歩調を合わせて協力して物事を行う』といったチームワークを表す例えで使われることがあります。この原稿を書いている今も、研究大会実行委員と研究会スタッフが二人三脚で9月22日開催の研究大会に向かって走り続けています。お互いを信頼しあい、目標に向かって一步一步確実に前進しているところです。慌ただし時期ではありますが、少しでもたくさんの方にご参加いただくと幸いです。皆様にお会いできることを一同楽しみにしています。

第55回全国公立小中学校事務研究大会（福井大会）報告

第55回全国公立小中学校事務研究大会（福井大会）が現地参集及びオンライン参加によるハイブリッド形式で開催され、文部科学省行政説明、全体研究会Ⅰ（本部研究提案）、分科会（支部提案討議・本部討議）、全体研究会Ⅱ（シンポジウム）などの内容により2日間の日程で行われました。紙幅の関係上すべての内容を紹介することはできませんが、このうち本部研究提案では、「地域とともにある学校をつくるリーダーシップと組織開発ー多様な人材の可能性を引き出す学校事務ー」をテーマとして、「学校におけるリーダーシップと組織開発の在り方」、「組織開発における事務職員・共同学校事務室の役割」の二つの柱で研究討議が行われました。

第3分科会（新潟支部）では、「子どもも大人もいきいきと活躍する楽しい学校づくりーACTでつくる組織のミライー」をテーマに、オンライン参加者にも配慮し、参加者からの意見や感想をリアルタイムに共有しながら提案討議が進められました。共同実施における構成員の若年化が急速に進む新潟県において、行動力を意味する「Action」、改善を意味する「Act」、活性化を意味する「Activate」、活躍を意味する「Active」のそれぞれに共通する「ACT」を合言葉に個々の主体的な行動が組織の一層の活性化につながると考え、会員と



もに取り組んだ実践が報告されました。助言者からは、「人と一緒に仕事をするにあたって、『またあなたと仕事がしたい』と言われることが、仕事がんばれる最高の源泉であるそうです。みなさん自身がそう言われるように、また、そう言ってあげたい人に出会ってほしいと思います。」というメッセージで締めくくられました。

関係団体日程等

第32回大阪府公立学校事務研究大会	令和5年11月1日（水）【ハイブリッド開催】
第56回全国公立小中学校事務研究大会（本部主管）	令和6年8月9日（金）
第57回全国公立小中学校事務研究大会（滋賀大会）	令和7年7月31日（木）～8月1日（金）

編集後記

二学期が始まりました。学校行事が多い時期になり、慌ただし日々をお過ごししかと思います。夏休みは終わりましたが、引き続きリフレッシュしながら仕事を進めていきたいですね。（S）